



認知言語学

について調べる



★ 関連キーワード

- 認知意味論
- 構文文法
- 用法基盤モデル

「Paste (はすて)」とは？

ぱっと分かって、すっと頭に入る、テーマ別調べ方ガイドです。みなさんの学習をサポートする、総合図書館ラーニング・サポーター（LS）による作成です。レポート作成の際などにお役立てください

1. イントロダクション

1-1. 「認知言語学」とは？-トイレを流す？-

認知言語学(Cognitive Linguistics)という言葉を知ったことがあるでしょうか。あまり耳慣れないという人も多くいらっしゃるかもしれません。「認知」って、一体何だろう。「言語学」というからには、その一分野なのだろうけど…。

ここでの「認知」とは、「私たち人間の物事の捉え方」であるとされます。そして「認知言語学」は、言葉を人間の物事の捉え方・感じ方・考え方の反映として捉えています。

「最近、村上春樹を読んでいるんだ」「トイレを流してください」「今夜は鍋にしよう」…etc. これらの表現を使ったり、聞いたりしたことはありませんか？いずれも普段の生活の中で、当たり前のように使われています。でも、よく考えてみれば、ちょっと奇妙な言い方をしているのではないのでしょうか。「村上春樹」は人の名前なのに「読むもの」？「トイレ」ではなく水を流すのでは？

これらの問いに対して、人の心の動き(=認知)とのかかわりから答えていこうとするのが「認知言語学」です。ちなみに、上の例は「隣接性」に基づく「メトミー(換喩)」という概念で論じられています。具体的にどのように説明されているのか、ぜひ確かめてみてください。

代表的な研究者: George Lakoff, Mark Johnson, John R. Taylor, Adele E. Goldberg, Ronald W. Langacker, 大堀壽夫, 山梨正明, 靱山洋介, 松本曜など

関連分野: 生成文法、生成意味論、認知科学、第二言語習得

1-2. 学習するにあたってのポイント

認知言語学には、いくつかの大きな枠組み、共有されている考え方が存在します。今まさに研究が進歩している分野で、初学者向けの書籍も豊富なため、まずは一冊、興味を持ってそうな本を開いてみてはいかがでしょうか。以下に挙げている文献に当たるもよし、または総合図書館 4F、請求記号”801.04”、“801.05”あたりの書棚をうろろして、ピンときた本を手にとってみてほしいと思います。

1-3. 一般向けに書かれた資料・読み物

■ 言語学の教室：哲学者と学ぶ認知言語学 / 西村義樹, 野矢茂樹著

➤ 「昨日、財布に落ちられました」とはなぜ言えないの？

東京大学教授で哲学者の野矢茂樹(のやしげき)先生が認知言語学の「生徒」となり、初心者でも読みやすい対談形式で、「先生」(言語学者の西村義樹先生)と侃々諤々の議論を繰り広げます。哲学者の軽快かつ核心に迫る「つつこみ」が、読んでいて痛快。豊富な具体例もたくさん出されており、認知言語学って身近な学問だなあと感じられる一冊です。新書なので、価格もお手頃です。

【書誌 ID=2004287569】総合図-A 棟 3 階 文庫・新書 089/CS/2220

2. 学習用資料

2-1. 事典・ハンドブック 類

■ 認知言語学大事典 / 辻 幸夫編集主幹 ; 楠見孝[ほか]編集

認知言語学全般にかかると一般的に情報量を概観できる分厚い一冊。認知音韻論、認知形態論、認知意味論、フレーム意味論、構文文法、メンタル・スペース理論、認知詩学など各専門分野のベテランの研究者が集まり、身体性と経験基盤主義、カテゴリー化、イメージ・スキーマなどの主要概念、また認知心理学、神経科学、自然言語処理などの関連領域との接点を幅広く紹介してくれています。認知言語学に興味を持っているが、よく知らない方、研究テーマ選びに悩んでいる方にお勧めです。

【書誌 ID=2004485227】総合図-A 棟 2 階 参考図書 801/TSU

■ 新編認知言語学キーワード事典 / 辻幸夫編

同じ専門用語であっても、分野によって解釈が全然違う場合がよくありますね。認知言語学においてはその用語がどのように定義されているのか？どこから来たのか？今の段階に至る経緯はどうなっているのか？などを確認したいとき、この本がお勧め！最大 2 ページで具体例を取り上げ、マクロかつ俯瞰的な視点から専門用語を解説しています。初学者、専門家を問わず、認知言語学に関わる人にとって必携の事典と言えるほどぜひ手に入れて欲しい一冊です。

★「認知言語学を学ぶ人のための基本文献案内」が付録として掲載されており、入門書からさらに踏み込んだ専門書まで、認知言語学に関わる書籍が数多く紹介されています。次にどの本を読むか迷う時、ぜひ参考にしてください。

【書誌 ID=2004304856】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/TSU

2-2. 最初に読むべき資料：教科書・古典

■ 日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学 / 靱山洋介著

➤ 「裸眼」と「肉眼」はどう違う？

今まで全く認知言語学に触れたことのない人にも、その基本的な考え方・魅力を伝えるために書かれた一冊。内容・分量ともコンパクトにまとめられており、「裸眼/肉眼」の違いなど、身近な例を豊富に散りばめた解説が読めます。これを読んで、「もっと知りたい！」と思った人には次の本をお勧めします。

【書誌 ID=2004115411】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801.04/MOM

■ 認知言語学 / 大堀壽夫著

➤ 本格的な教科書

認知言語学の主要な考え方である「カテゴリー化」「プロトタイプ」「メタファー」などを分かりやすく、かつ詳細に伝えてくれます。著者によるウェブサイトでも、認知言語学に関する論文・著書等が紹介されています。(https://coglxremote.blogspot.com/p/start.html)

【書誌 ID=2003544518】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/OHO

■ 認知文法のエッセンス / ジョン・R・テイラー, 瀬戸賢一著

John. R. Taylor の Cognitive grammar (OUP, 2002) をベースとした認知言語学の入門書。日本語の例も多く紹介されています。

【書誌 ID=2004076497】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801.5/TAY

■ 認知言語学への招待 / 辻幸夫編

【書誌 ID=2003565824】総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/SHI/1

■ 認知音韻・形態論 / 吉村公宏編

【書誌 ID=2003565829】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/SHI/2

■ 認知意味論 / 松本曜編

【書誌 ID=2003565831】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/SHI/3

■ 認知文法論 I / 西村義樹編

■ 認知文法論 II / 中村芳久編

【書誌 ID=2003597517】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/SHI/4

上記の 5 冊は認知言語学的アプローチから音韻論、形態論、意味論、文法論、コミュニケーション論など、言語のあらゆる側面を体系的に解説する入門シリーズです。

章ごとに関連する練習問題が載っており、自分の理解度を確認するために、ぜひ解く練習をしてみてください。読む、考える、練習するという流れを通して、私たちの周りに存在する様々な言語現象を認知言語学的に分析するスキルを身につけましょう。

★ここから先は、認知言語学の「古典」にあたる文献です。読むのが容易でないものもあるので、本格的に取り組みたい、という方にお勧めします。

■ レトリックと人生 / G. レイコフ, M. ジョンソン著 ; 渡部昇一, 楠瀬淳三, 下谷和幸訳

【書誌 ID=2002043457】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801.6/RET

■ 認知意味論 : 言語から見た人間の心 / ジョージ・レイコフ著

【書誌 ID=2003037992】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801.04/LAK

前者は、レイコフ、ジョンソンの共著で「メタファー」という概念を世に知らしめた高名な一冊。“MORE IS UP”「増える」ことは「上がる」ことである、“ARGUMENT IS WAR”「議論」することは「戦争」である等々、人間のものの考え方の枠組みとなる「概念メタファー」を示しました。後者は「認知言語学」を打ち立て、言語学以外の分野にも影響を与えた大著です。

2-3. 最新情報が確認できる資料: 主要雑誌・年鑑・Web ページ

■ 日本語学

明治書院から出されている専門誌。専門誌の中では比較的とつきやすく、テーマ別のファイルを使えば、レポートのテーマ決定の際に役立つかもしれません。

【書誌 ID=3001076715】 総合図-A 棟 3 階 新着雑誌/自動書庫

■ 日本認知言語学会論文集

日本認知言語学会から出版されている論文集。認知言語学についての学会発表を雑誌にまとめたもので、最新の研究に触れられます。DVD-ROM 版もあるので、電子データの入手も可能。

【書誌 ID=2004242835】 外国図カウンター* 801/1781

■ 大阪大学学術情報庫 OUKA (Osaka University Knowledge Archive)

(<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>)

大阪大学の機関リポジトリ。学術雑誌掲載論文、博士論文、学会発表資料など、様々な研究成果物が登録されています。大阪大学に所属する教員・学生なら誰でも無償でアクセスできます。簡易検索のところに「認知言語学」を入力し、最新の論文をチェックしましょう。

2-4. その他専門書・学術論文等で注目すべきもの

■ 思考する言語：「ことばの意味」から人間性に迫る / スティーブン・ピンカー著

➤ 人間の「思考の仕組み」が見えてくる

発達心理学の専門家であるスティーブン・ピンカーの著作。言語と人間心理・社会との関係を、刺激のかつ多様なテーマに沿って論じています。上・中・下と三巻ありますが、個人的にはどれから読んでも面白いと思います。認知言語学に近いテーマでは、レイコフの唱えた「概念メタファー」への反論などがあります(第五章)。人間の思考の仕方を哲学的な概念をもとに論じる「第四章 世界認識の四つの方法——物質・空間・時間・因果」は、言語学専攻ならずとも一度は読んでほしい文章。「子どもの名前の流行の趨勢」「タブー語・ののしり言葉」など、とっつきやすいテーマも満載です。

【書誌 ID=2004106658】 総合図-書庫棟研究用図書 801/PIN/1-3

■ メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何があるのか / ジョン・R.テイラー著；西村義樹 [ほか] 編訳；古賀裕章 [ほか] 訳

➤ 認知言語学におけるメンタル・コーパス革命を起こす画期的な著作

本書の言語観によると、私たち人間が持つ言語知識はすべて現実の言語使用とそれに関わる一般的能力(カテゴリー化、スキーマを抽出する能力、連想能力など)によって構築されます。いわゆる用法基盤モデル(Usage-based Model)です。これはチョムスキーによって創始された生成文法的アプローチとは根本的に異なるものです。

例えば、日本人の子どもは、生まれながらに日本語を知っているのではなく、日常生活の中でたくさんの日本語に接しているため、そういった経験についての記憶をもとに、真似して使用していく中で、日本語に関する言語知識が構築され、徐々に日本語を使えるようになる、という言語知識の成立の仕方です。本書で紹介されているメンタル・コーパスは、この用法基盤モデルを発展させたものであり、これまでに出会った言葉表現がテキストの集合体(コーパスと類似)として私たちの頭の中に蓄積されているという立場に立って、多種多様な言語現象を説明しています。

【書誌 ID=2004426157】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/TAY

★用法基盤モデルに関してさらに読みたい方に以下の本がおすすめです！

■ 言語習得と用法基盤モデル：認知言語習得論のアプローチ / 児玉一宏, 野澤元著

【書誌 ID=2004112118】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 801/KOZ/6

■ 前置詞 by の意味を知っているとは何を知っていることなのか：多義論から多使用論へ / 平沢慎也著

【書誌 ID=2004475721】 総合図-A 棟 4 階 学習用図書 835. 64/HIR

3. レポート・論文執筆用資料

3-1. 有用な検索キーワード

- ◆ 主要キーワード: 認知言語学/認知意味論/構文文法/認知的アプローチ
- ◆ 関連キーワード: 意味拡張、文法化、主観化、主体化
- ◆ 補助キーワード: 認知のメカニズム、意味構造

3-2. 二次資料類：検索サイト・書誌索引

- 国立国語研究所データベース・データ集 (<https://www.ninjal.ac.jp/database/>)
国立国語研究所のHP上にある、データベースのリンク集。論文検索、コーパスなど、研究に役立つコンテンツが沢山掲載されています。
- 日本語研究・日本語教育文献データベース (<https://bibdb.ninjal.ac.jp/bunken/ja/>)
上述の国立国語研究所の文献データベース集の中で、特に日本語研究・日本語教育に関する文献のためのデータベース。論文を検索したいときに便利です。
- JapanKnowledge Lib ジャパンナレッジ『日本国語大辞典』『デジタル大辞泉』など
(<http://japanknowledge.com.remote.library.osaka-u.ac.jp/library/>)
阪大図書館のデータベースに含まれている、辞典・辞書の総合データベース。大阪大学個人 ID があれば学外からでも利用可能です。特に「言語学」用というものではなく、信頼の置ける国語辞典の Web バージョンという位置づけです。レポート作成の際など、語句を適切に理解してから書きたいときは、これを利用すると良いでしょう。特に『日本国語大辞典』は、その語句の初出が分かって便利です。

3-3. レポート・論文の書き方、学び方、引用・参考文献の書き方

- 言語学における修士論文・博士論文執筆の手引き / 松本曜
(https://www.researchgate.net/publication/356287612_yanyuxueniokeruzuyelunwenzhibinoshouyinki_ver_6)
認知言語学領域では非常に影響力のある言語学者松本曜先生が書かれた論文。言語学、特に認知言語学の研究をしている人たちにお勧めです。研究の進め方から論文の構成・展開・書式まで、さらに学会発表と投稿に当たっての注意点についても色々紹介しています。
言語学に関する先行研究を調べる際、参考になるデータベースもいくつか掲載されています。この手引きを念頭に置いて、論文執筆に取り組んでいくのが良いでしょう。

本文中で紹介している図書・雑誌について

図書名・雑誌名の後ろに「書誌 ID」(10桁の数字)の記載があるものは大阪大学で所蔵しています。この10桁の数字で大阪大学 OPAC(蔵書検索システム)が検索できます。

